

大好き！絵本

初瀬 恵美



『かぜがはこんだ
クリスマス』
文・絵: つるみゆき
出版社: サンパウロ会

早いもので今年も残り一か月となりましたね。すでに街はクリスマスカラーに彩られています。12月に入った途端、冷たい風が吹き荒れ、冬の厳しさを痛感しています。こんな寒い冬ですが、保育園も、イエス様のお誕生をお祝いするため、手作りのステンドグラス風窓枠やタペストリー、ツリーなどで、保育室や園庭を明るく飾り付けしました。一年で一番、華やかな保育園に変身です（笑）！

さて、毎年12月はクリスマスにちなんだ絵本を紹介していますが、今年は『かぜがはこんだクリスマス』を紹介したいと思います。

主人公は、黒い小さな野良猫「ベル」です。クリスマスの夜、冷たい風が吹きぬけ、雪が降り続ける街を、ベルはとぼとぼと歩いていました。絶望感を背負うベルと対照的に、街は明るく、人々も笑顔で楽しそうです。ふいに

ベルは「おいで」と誰かに呼ばれたような気がしました。次の瞬間ベルは知らないところへ来ていました。それは、2000年前のナザレの村でした。風がタイムトリップしてここへ運んだのです。そして、マリアさまと出会います。それからイエスさまがお生まれになるまでを体験します。

救い主イエス様の誕生を羊飼いや三人の博士そして、世界中の人々が喜んでいることが分かったベルは嬉しくなります。そして「よかったね」と風に話しかけると、またもとの世界へ戻りました。そこでベルは、イエス様がお生まれになったときと同じ風がふいていることを感じます。風がよんでいるほうには、あたたかな明かりが・・・そこに向かって走りだしました。さて、その明かりの先には何があったのでしょうか？そして、ベルは？

一匹の絶望的な猫を通し、この絵本はいろいろなことを語り掛けてくれています。冷たい風雪の夜、空腹の猫が「嬉しい気持ち」「よかったね」とほかの人を思う気持ちを持つ出来事を経験したのです。それが、イエス様の誕生でした。そして、現代に戻り、希望を見つける・・・昔も今も結ばれている「何か」を確信したのです。それが、明かりの先にあるものでした。この季節、嫌われる「風」を通して、全てをうまくつなぎ合わせ、感動的にまとめた絵本だと思いました。

また、挿絵は、荒野、吹雪、光に包まれたあたたかく幸せにあふれているイエス様の誕生、など、場面ごとにきれいに丁寧に描かれています。子どもたちの心に残る挿絵のようで、私は大好きです！

イエス様誕生のお話は、毎年『聖劇～ようこそイエス様～』として、おうちの方や、地域の方向けに子どもたちが演じます。どうぞ楽しみにしててください。

